

焼岳の火山活動解説資料（平成 20 年 8 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動状況

・噴気など表面現象の状況（図 2、図 3）

7 月 31 日 11 時 19 分頃に「ドーン」という音を聞いたとの通報がありましたが、1 日に行った上空からの観測（国土交通省北陸地方整備局の協力による）では、山頂北峰及び南西斜面（岩坪谷）の噴気活動は、前回（6 月 8 日、現地調査）と比べ特段の変化は見られませんでした。

なお同時刻に、焼岳の北約 6 km の浅いところでマグニチュード¹⁾ 2.3（暫定値）の地震が発生しており、震源に近いところでは、上記の通報のような地鳴りの音が発生したものとされます。

1) マグニチュード（M）は地震の規模を表します。資料中のマグニチュードは一部暫定値も含まれており、後日変更することがあります。

・地震や微動の発生状況（図 4 ※）

山頂付近の浅い所を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

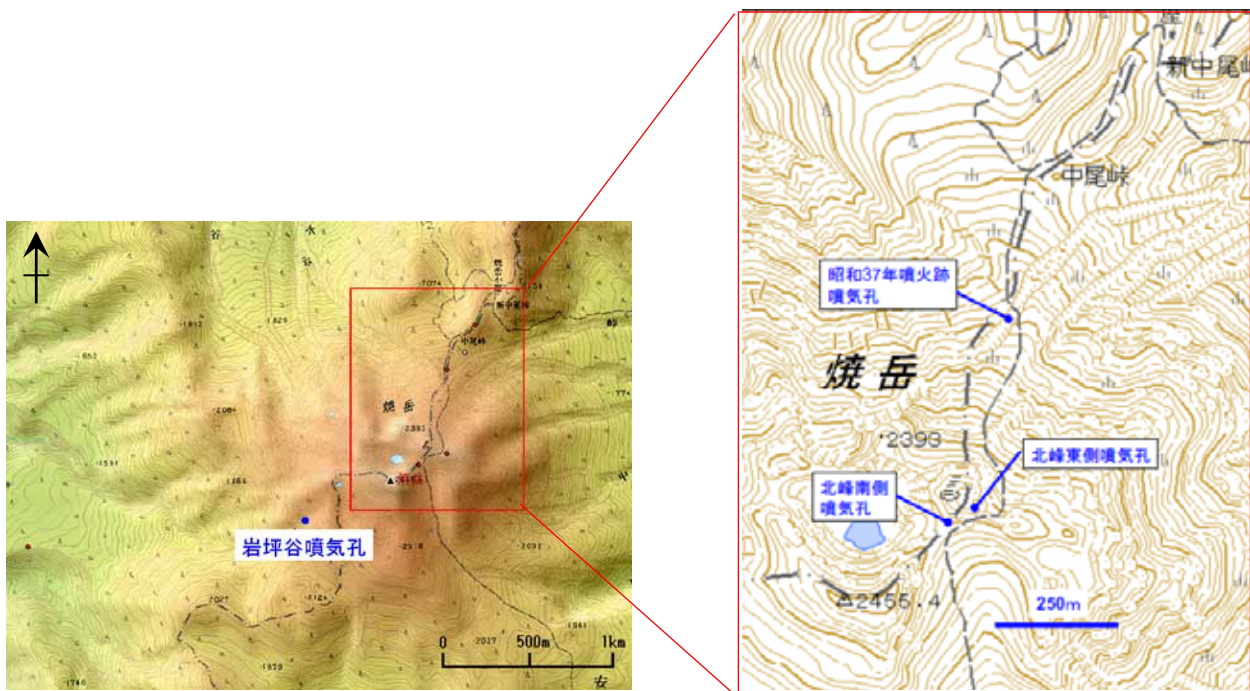


図 1 焼岳 噴気孔の位置

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 9 月分）は平成 20 年 10 月 7 日に発表する予定です。
※この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

焼岳



（2008 年 6 月 8 日、東南東側より撮影）



（2008 年 8 月 1 日、東側上空より撮影）

図 2 焼岳 山頂北峰の噴気の状態



（2008 年 6 月 8 日、西南西約 2 km の地点より撮影）



（2008 年 8 月 1 日、南西上空より撮影）

図 3 焼岳 南西斜面の噴気（岩坪谷噴気孔）の状態

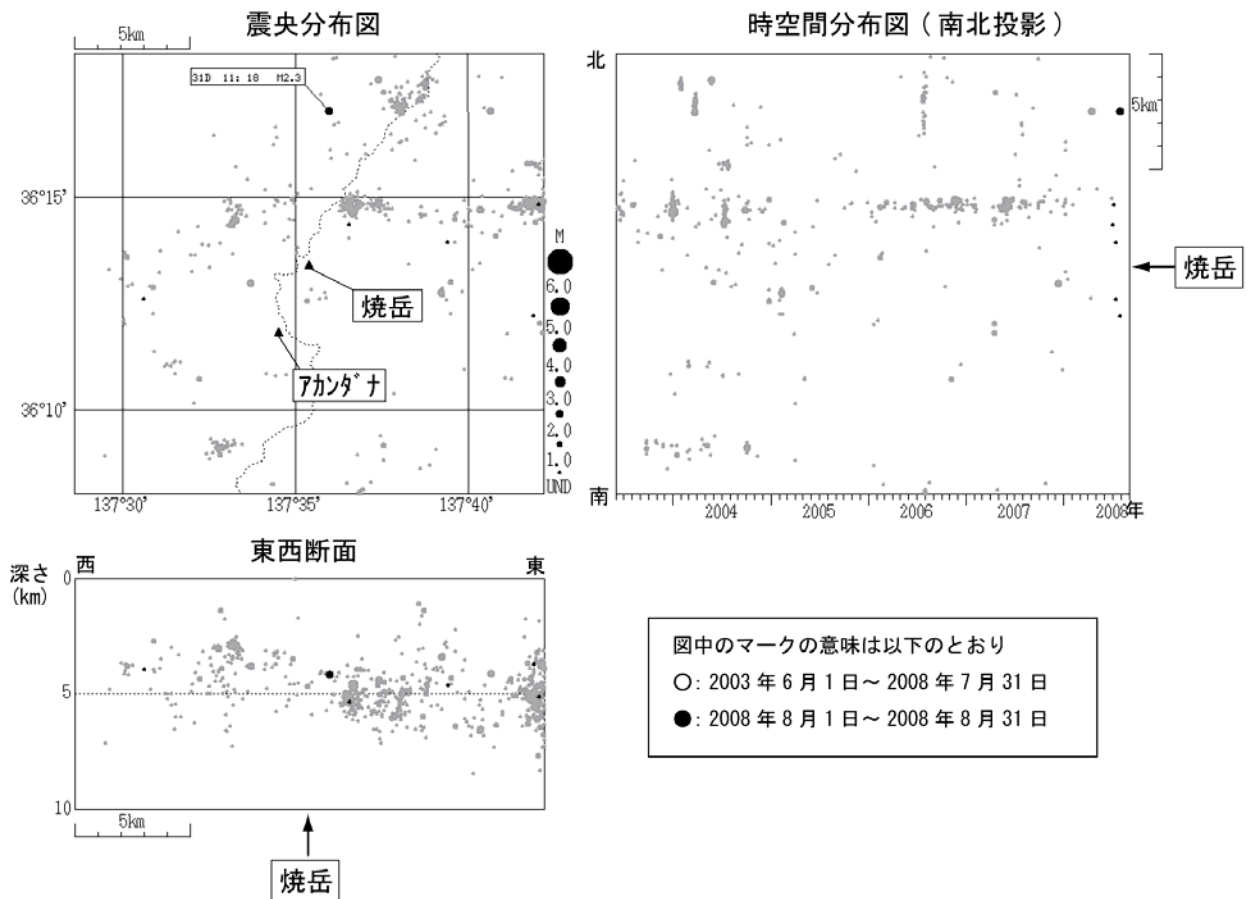


図 4 ※ 焼岳 山体及びその周辺の地震活動（2003 年 6 月 1 日～2008 年 8 月 31 日）
M（マグニチュード）は地震の規模を表します。図中の震源要素は一部暫定値で、後日変更することがあります。